東京都立小石川中等教育学校令和6年度学校経営計画

東京都立小石川中等教育学校 校長
鳥屋尾　史郎

1　目指す学校

(1) 教育目標

「立志」「開拓」「創作」

〔自ら志を立て（立志）、自分が進む道を自ら切り拓き（開拓）、新しい文化を創り出す（創作）〕

(2) スクールミッション

スクールミッションは以下のとおりである。

生徒が広い視野と豊かな教養を身に付けることを目指し、小石川教養主義に基づき全ての教科・科目を偏りなく学ぶとともに、これを土台とした理数教育、国際理解教育、６年間を貫く探究活動、専門家による特別講演などの特色ある教育活動を通じて、自ら志を立て、自分が進む道を切り拓き、新しい文化を創り出すグローバルリーダーを育成する。

(3) スクールポリシー

スクールポリシーは以下のとおりである。

ア　グラデュエーション・ポリシー

本校は、小石川教養主義、理数教育、国際理解教育の３つを柱とした６年一貫の体系的な教養教育を推進し、在校中はもとより卒業後も自らの人生に果敢に挑戦していく生徒を育成するため、次の資質・能力を育成する。

・現状に満足せず、高い志をもち、自らの個性と能力を自ら開拓する能力
・国際社会に生きる日本人として、幅広い教養と豊かな感性及び高い語学力
・自然科学など様々な場面・分野で活躍できるリーダーを目指す高い志

イ　カリキュラム・ポリシー

・全ての教科・科目で基礎・基本の徹底を図るとともに、それらを活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力等の能力及び主体的に学習に取り組む態度を育成し、総合的な学力の向上、体力の向上を推進する。
・文部科学省の「スーパーサイエンスハイスクール」（ＳＳＨ）指定校として、６年間を貫く課題研究「小石川フィロソフィー」を中心に、「課題発見力」「継続的実践力」「創造的思考力」を身に付け、世界の科学技術を牽引する人材育成カリキュラムを開発、実践する。

「小石川セミナー」「サイエンスカフェ」「グローバルカフェ」などの機会において、各分野で活躍する専門家を招き、最先端の学問や芸術に触れる学習を取り入れる。

ウ　アドミッション・ポリシー

・すべての科目を偏りなく学び、理数教育、国際理解教育、課題探究型学習などを推進している本校の特徴を理解し、本校で学びたいという強い意欲をもつ児童
・身の回りの様々な事象に疑問を持ち、それを自ら解決したいと考える児童
・主体的に教科学習、課題探究型学習、部活動、生徒会活動、行事週間などに取り組む意欲がある児童

(4) 目指す学校像

ア ６年間一貫して高い水準の教養教育を行い、生徒の自己実現を積極的に支援する学校

イ 様々な分野のパイオニアを目指し、幅広い教養と高い学力を育成する学校

ウ 行事や部活動、委員会活動等を通して生徒が互いに切磋琢磨し合い、豊かな人間力を育成する学校

エ 生徒の自己管理能力を高め、生徒自ら個性と能力を伸長する学校

オ 地域に信頼され、愛される学校

(5) 育てたい生徒像

ア 現状に満足せず、高い志をもち、自らの個性と能力を自ら開拓する生徒

イ 国際社会に生きる日本人として、幅広い教養と豊かな感性及び高い語学力を身に付けた生徒

ウ 自然科学など様々な場面・分野で活躍できるリーダーを目指す志の高い生徒

2 中期目標と方策

(1) 目標

ア 「小石川教養主義」を推進し、生徒に幅広い教養や豊かな感性、高い学力を身に付けさせるとともに、次代を担うリーダーに必要な資質・能力を育成する。

イ 「理数教育」の柱である第４期ＳＳＨ事業を中心に、生徒の科学的思考力・判断力を継続的に高める取り組みを進める。

ウ 「国際理解教育」を通して、グローバルマインド及び日本人としてのアイデンティティを育成する。

エ 自己の将来に向け、高い志を立てることができる生徒を育成し、その実現に向け、最大限の支援を行う。

(2) 方策

ア 全生徒全教科科目履修や課題探究型学習「小石川フィロソフィー」を通して、生徒個々の資質・能力を最大限に伸長させる。

イ 第４期ＳＳＨ事業の研究開発課題「「小石川リサーチラーニング」による、世界の科学技術を牽引する人材の育成」を全教職員で組織的に取り組んでいく。ＳＳＨ運営指導委員からの指導・助言などを参考に、ＳＳＨ事業の向上をさらに進める。

ウ 広い教養や高い語学力といった、グローバル社会に生きる日本人として求められる能力の育成を目指した教育活動を推進する。

エ 教養教育に基づくキャリア教育を展開し、様々な分野において、高い志をもって果敢に挑戦していく生徒を育成する。生徒の進路希望を実現する進学指導体制を組織的に構築し、実践する。

3 今年度の取組目標と方策

(1) 教育活動の目標と方策

学校経営・組織体制

＜目標＞

小石川教養主義、理数教育、国際理解教育を全教職員で推進し、学校の組織的経営の強化と課題に対しては組織的解決を図る。

＜方策＞

(1) 主幹教諭及び分掌主任が経営計画の進行管理を行い、定期的に進捗状況を報告する体制を推進する。

(2) 「一台端末活用-ＰＪ」「出願書類 - ＰＪ」「ＳＳＨ-ＰＪ」「グローバル-ＰＪ」を設置し、それぞれの課題解決に当たるとともに、各分掌、学年、教科との連携を図る。

(3) 教科主任会議及び教科会を活用して、組織的な教科指導体制及び教科指導に関する人材育成を推進する。

(4) 後期課程教育課程完成年度に伴う教科・科目の指導内容の充実、観点別評価の適切な実施、C4thの運用によるスムーズな成績処理により、教育活動の質の向上を図る。

(5) 経営企画室職員の各職層に応じた資質・能力の向上を図り、経営参画意識を高める。レベルの高い教育活動を推進するため、予算執行や施設整備等、経営企画室所掌事項において改善を図る。

(6) 学習指導要領改訂に伴う大学入試の変更や推薦型選抜の新たな動向等に注目しながら、教育課程と高大接続とを連動させるため、教務部と進路指導部とで連携を密にして、教科、学年とも情報共有を図り組織的な運用を行う。

(7) ＰＴＡ及び紫友同窓会と連携し、高い教育効果が期待できる取り組みを行う。

(8) 業務の精選化、効率化を図り、教職員のライフワークバランスを推進する。

学習指導

＜目標＞

(1) すべての教科・科目で基礎・基本の徹底を図るとともに、基礎・基本から発展させた高度な知識、技能、必要な思考力、判断力、表現力等の能力、及び主体的に学習に取り組む態度を育成し、学力の向上を図る。

(2) 中高一貫教育校、ＳＳＨ指定のアドヴァンテージを最大限に生かしながら、教科横断的、学年縦断的な授業を取り入れるなど、より質の高い授業を実施して生徒の学習意欲を高める。

＜方策＞

(1) 習熟度別授業、少人数授業等を通して、基礎・基本を徹底し、様々な補講、講習等の充実を図る。

(2) 「小石川セミナー」「サイエンスカフェ」「グローバルカフェ」を一層充実させる。

(3) 小石川教養主義に基づく本校独自の教育課程の特色を一層充実させる。

(4) 生徒に予習・復習の学習習慣を定着させ、自宅学習時間の確保を図る。

(5) 教育課程及び授業時間数を適正に管理する。

(6) 「小石川フィロソフィー」等における学校図書館や外部図書館の活用、「ビブリオバトル」の充実などを通して、より質の高い読書活動を推進し、生徒が主体的に学習に取り組む態度を育成する。

(7) 「小石川フィロソフィー」「小石川サイエンス」等、本校独自教科、科目において、一層の教科横断型、学年縦断型の授業や研究発表に取り組む。

(8) 後期課程の生徒一人一台タブレット端末所持によるデジタル技術、ＩＣＴを活用した教育を推進し、より効果の高い学習活動の開発に取り組む。

生活指導

＜目標＞

生徒に自立を促し、生き方・在り方を考えさせ、自律に基づくソーシャルスキルを身につけさせる指導を推進する。

＜方策＞

(1) 時間厳守や身だしなみなど、最低限のルール、マナーの指導を徹底する。

(2) 日常の教育活動を通し、あいさつを励行するなど、社会性や自律性を育成する。

(3) ダイバシティの重要性、相手の立場に立った人権や尊厳の尊重、プライバシーや個人情報の保護に配慮できるように指導する。

(4) 思いやりの心や奉仕の精神を育成し、信頼し合える人間関係を構築させる。

(5) 美化活動や環境保護、持ち物や施設を大切にすることなどに対する生徒意識の向上、公私関わらず物品管理の徹底を指導する。

(6) 関係機関と連携し、交通安全、薬物乱用防止、携帯電話の危険性などをテーマにセーフティー教室を実施する。また、文京区青少年問題協議会と連携し、地域の情報を共有して安全教育を推進する。

(7) 体罰の未然防止に向けた教員研修を通して、生徒理解と信頼関係に基づく生活指導の徹底を図る。

(8) いじめの未然防止、早期発見、早期対応の徹底を図る。「学校サポートチーム」の助言・支援を活用する。

特別活動・部活動

＜目標＞

学校行事や部活動、委員会活動等への生徒の主体的な取り組みを通して、リーダーシップを発揮できる人間性と最後までやり抜く力を育む。

＜方策＞

(1) 学校行事や部活動、委員会活動等の企画・運営を通して、生徒の主体性や創造性を育てる。特に行事週間などにおける異年齢集団との交流を通して、生徒が自ら考え、判断し、集団の中で積極的に行動できるリーダーとしての素養を育成する。

(2) 学校行事を地域等に公開する中で、様々な人とのふれあいや交流を通して、豊かな人間性の育成を図る。

(3) 部活動に関する部費の適正管理を徹底する。

(4) 前期課程の部活動の地域連携を積極的に推進するとともに、週休日部活動の地域移行を順次進めていく。

健康づくり

＜目標＞

心身ともに健康で、思いやりがあり、人間性豊かな生徒を育てる。

＜方策＞

(1) 学校保健計画に基づく保健指導を通して、生徒の心身の健康と体力の維持・向上を図る。

(2) 学習環境の整備と美化に努めるとともに、健康に関する生徒の自己管理能力を高める。

(3) スクールカウンセラー及び家庭と連携し、発達段階に応じた課題に学校全体で取り組む。

(4) 生命尊重の視点に立った生徒指導を行い、日常生活の中で生徒の変化を敏感に捉えるとともに、定期的に２者面談、３者面談を実施し、生徒の様子を適切に把握する。また、生徒の危機状況を早期に発見し、組織的な支援、関係諸機関と協力できる体制を構築する。

(5) 学校給食運営委員会を通して前期課程給食の運営状況を把握するとともに、給食を通した食育を推進する。

(6) 運動やスポーツとの多様な関わりを通して、健康で活力に満ちた生活をデザインすることができるように取り組む。また、体育授業にパラスポーツを取り入れることで、誰もがスポーツを楽しみ、生徒が自ら進んで体力の向上を図ろうとする態度を育てる。
(7) 特別な支援を必要とする生徒に対して、中野特別支援学校と協力して特別支援学級、通級学級を実施する。
(8) 精神科医派遣事業や産婦人科医配置を活用し、専門的な見地による健康相談を実施するなどにより、生徒の心身ともに健全な育成を目指す。

進路指導

＜目標＞

キャリア教育を推進し、生徒一人一人の進路希望実現に向け、学校全体で取り組む。

＜方策＞

(1) 生徒の進路希望実現に向け、進路指導部主体で進路指導計画を立案し、学年及び教科と連携して実施する。
(2) 前期課程では、健全な職業観育成に主眼を置いたキャリア教育を実施する。
(3) 外部模試の分析結果を教科にフィードバックして、教科指導の改善を促す。
(4) 「進路の手引き」を活用して、生徒の自己実現を積極的に支援する。
(5) 各教科による模試の答案分析、大学入試問題の研究及び指導内容・指導方法の改善、年間指導計画や特別選択講座の内容の改善を推進し、教科指導力の向上を図る。
(6) シラバスに基づき、授業を実施し、評価、改善するマネジメントを定着させる。
(7) 長期休業日の有効活用を図るため、進学向け講習を企画・立案し、生徒への提示、調整等を行う。
(8) 同窓会と連携して、研究室訪問や分野別大学模擬講義を実施する。
(9) 自習室及びチューターの積極的活用を推進する。

募集・広報活動及び地域交流

＜目標＞

(1) 募集・広報活動を全教職員の連携・協力の下に行い、本校の求める応募者の増大を図る。
(2) 地域交流を推進し、社会参加に関する生徒の意識及び災害など非常時の対応能力の向上を図る。

＜方策＞

(1) ＨＰを通した教職員の情報発信能力を高め、本校の特色ある教育実践を積極的に発信する。
(2) 全教職員の連携・協力の下に、授業公開、学校説明会等を実施して、本校の特色ある教育実践を発信するとともに、本校の求める応募者の増大を図る。
(3) 受検希望者の本校に対する理解を深めるため、小学生の来校機会を充実させる。
(4) 防災教育推進委員会の活用及び防災訓練の実施等を通して、非常時に対応できる資質・能力を高める。
(5) 地域と連携した活動を通して、生徒の社会参加意識を高め、進んで社会に貢献しようとする態度を養う。
(6) 保護者との連携をより密にするため、ＨＰ機能を活用するとともに、オンラインの活用についての検討を進める。
(7) 防災教育研究指定校として、地域と連携した防災の在り方を研究し、より安全な地域社会の建設に向けた取り組みを行っていく。

理数教育・SSH

＜目標＞

(1) 第４期ＳＳＨ事業３年目にあたり、事業を適切に進めるとともに、第３期からさらに発展、進化した取り組みを目指す。
(2) 理数教科科目に対する生徒の興味関心を高め、自主研究、課題発見学習の質を高めていく。

＜方策＞
(1) 第４期ＳＳＨ事業計画に従い、様々な理数系カリキュラム等の開発・改善を進める。
(2) 大学との連携や接続の一層の強化を図る。
(3) 教員の指導力の向上を図る。
(4) ＳＳＨ運営指導委員会から指導・助言を受け、組織的に事業を展開するとともに、第４期ＳＳＨ事業の不十分と思われる課題についての精査を始める。
(5) ＳＳＨ事業の推進のため、校内組織の整備を進める。

国際理解教育

＜目標＞
国際社会に生きる日本人として、求められる幅広い教養と豊かな感性、及び高い英語力に基づくコミュニケーション能力を身に付けさせるとともに、グローバルな視点でものごとを考えられるこれからの時代のグローバル人材を育成する。

＜方策＞
(1) グローバル−ＰＪが中心となり、「Global Education Network ２０」の諸事業を計画的に実行する。
(2) 授業を通して、４技能バランスのとれた英語力を習得させ、国内語学研修、海外語学研修、各種検定試験などを通して、段階的に英語の運用能力を高める。
(3) シンガポールへの海外研修旅行（５年）を行い、現地の連携校で研究内容について発表を行う。
(4) 海外からの訪問を積極的に受け入れ、国際交流を推進する。
(5) オリンピック・パラリンピック開催の年にあたり、ボランティア・マインドや障害者理解、体力の向上やスポーツ志向、日本人としての自覚と誇り、豊かな国際感覚等の資質や態度の育成を指導する。

(2) 重点目標と方策 ……

学校経営・組織体制

＜目標＞
(1) 本校の特色ある教育活動「小石川教養主義」「理数教育」「国際理解教育」を全教職員で推進する。
(2) 企画調整会議での積極的な協議、意見交換を通して、教員の方向性を揃える。
(3) 学校業務の効率化を図り、ライフワークバランスを推進する。

＜方策＞
(1) 理数教育については「ＳＳＨ−ＰＪ」、国際理解教育については「グローバル−ＰＪ」を中心に、各分掌、学年、教科と連携した上でそれぞれ推進する。
(2) デジタル技術を活用した教育の推進については「一台端末 - ＰＪ」を中心に運用していく。
(3) 各種会議を効率的・効果的に運営する。
(4) 教職員それぞれに応じた 生活と仕事との両立・調和がとれるよう働き方を改善する。

＜数値目標＞
(1) 学校評価アンケートの評価項目Ｑ１〜Ｑ３の「そう思う」を８０％以上とする。
（前年度　小石川教養主義６５．４％、Ｑ２「理数教育」７２．６％、Ｑ３「国際理解教育」６２．６％）
(2) 時間外勤務による産業医面接教職員の平均を５人未満とする。

学力向上に向けた授業改善

＜目標＞

(1) 「授業第一主義」を実践する。

(2) 生徒の学力の状況及び推移を把握し、授業改善に反映させる。

(3) 授業力の向上に努める。

(4) 生徒の進路希望の実現に必要な学力の土台をつくる。

＜方策＞

(1) 基礎・基本の徹底を図るとともに、それらを活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力等の能力及び主体的に学習に取り組む態度を育てる授業づくりに努める。

(2) 模試の結果を活用した分析会を実施し、授業改善に反映させる。

(3) 校内外における授業見学や研究協議への参加、大学入試問題の分析等を通して、授業力の向上を　図る。

(4) ５教科について、生徒の進路希望の実現から逆算して指導計画を見直し、大学入学共通テストの得点率８０％以上を目指す授業を実施する。

＜数値目標＞

(1) 指名制の授業研究、指導教諭による模範授業及び予備校での教員対象大学入試問題指導力向上セミナーに４０名以上を派遣する。（昨年度　３２名）

(2) 大学入学共通テストにおいて、得点率８０％以上の人数を、各教科・科目受験人数の６０％以上にする。（前年度　５５．４％）

良い習慣の形成

＜目標＞

(1) 生徒がルールやマナーを尊重するなどのよい生活習慣が身に付く生活指導を行う。

(2) 生徒に予習・復習を前提として授業に臨む習慣を付けさせ、熱心に授業に取り組む態度を育成する。

(3) 学習に適した校内環境を整備し、時間を有効活用して学習する習慣を身に付けさせる。

(4) 基本的な生活習慣の形成を支援する。

(5) 各種検定等へのチャレンジを通して学習意欲を喚起させる。

＜方策＞

(1) 生徒の人権を尊重するとともに、「生活のきまり・確認事項(前期課程)」及び「生活のきまり及び留意点(後期課程)」に基づく生活指導を全教職員の共通理解の下に行う。

(2) 前期課程生徒に家庭学習時間を確保する学習計画を立てさせ、実行を支援する。

(3) 自習室や学校図書館の利用を推進する。

(4) 皆勤及び精勤（＝欠席・遅刻・早退のいずれかが１回）の生徒に対して表彰を行う。

(5) 英語検定、ＧＴＥＣ、数学検定、漢字検定等へのチャレンジを通して学習意欲を喚起させる。

＜数値目標＞

(1) 学校評価アンケートの項目「私は、あいさつや時間を守ることなど、社会的なルールやマナーが身についていると思う」に対する生徒の肯定的な意見を９０％以上にする。（昨年度　８８．８％）

(2) 学校評価アンケートの項目「私は、熱心に授業に取り組んでいる」に対する生徒の肯定的な評価を、９０％以上にする。（昨年度　８６．８％）

(3) 学校図書館における前期生１人あたりの図書貸出数を年間２０冊以上にする。（前年度１４．１冊）

(4) 年間皆勤及び年間精勤の生徒の割合を全体で３５％以上にする。（前年度　３３％）

(5) 遅刻をする生徒の延べ回数の４０００回以下とする。（前年度全学年遅刻延べ回数　６８７５回）

進路指導

＜目標＞

各学年に応じた進路指導体制を充実させる。

＜方策＞

(1) ６年生対象

ア 進路希望調査、進路面談、大学別解説会、国公立大学出願指導を実施する。

イ 大学入学共通テスト対策講座、私立大学入試対策講座、国公立大学二次試験対策講座、大学入学共通テスト実戦模試、難関国立大学模試添削指導を実施する。

ウ 週休日等も含めて自習室を開放し、生徒が自ら学習する環境を整える。

(2) ４年生・５年生対象

ア 進路希望調査、研究室訪問、大学模擬講義を実施して進路に対する意識の高揚を図るとともに、模試等を通して学力の推移を把握し、面談等による個別指導に活用する。

(3) 前期課程生徒対象

ア 職業調べ、職業講話、職場体験等を通して職業観を育成し、「なりたい自分」の目標を設定させ、進路決定への道筋をつくる指導を行う。

＜数値目標＞

(1) 大学入学共通テストにおいて、

５教科７科目型の受験者を在籍者の８０％）以上にする。（前年度　１１７名、７８．５％）

５教科７科目型の受験者のうち、得点率８０％以上の者を６０％以上にする。（前年度５６．４％）

(2) 国公立大学現役合格者を７０名以上にする。（前年度　８４名）

うち難関国立４大学及び国公立大学医学部医学科現役合格者を４０名以上にする。（前年度　３５名）

募集・広報活動及び地域交流

＜目標＞

(1) 募集・広報活動を一層推進し、本校の求める応募者の増大を図る。

(2) 全教職員の連携・協力の下に募集・広報活動を推進する。

(3) 本校の特色を表す体験授業を実施する。

(4) 災害などの非常時に対応できる資質・能力を高める。

＜方策＞

(1) ホームページを通した教職員の情報発信能力を高めるとともに、更新頻度を高め、内容を充実させて、本校の特色ある教育実践を積極的に発信する。

(2) 全教職員の連携・協力の下、授業公開、学校説明会等を実施し、本校の特色ある教育実践を積極的に発信するとともに、本校の求める応募者の増大を図る。

(3) 防災教育推進委員会を活用して、警察や消防、町会等から避難訓練や宿泊防災訓練に関する助言を受けるとともに、それらの改善・充実を図る。

＜数値目標＞

(1) 授業公開、学校説明会、体験授業等の合計来校者数を６０００名以上にする。（昨年度　５６６１名）

(2) 一般枠募集と特別枠募集の合計応募者数を７６８名以上にする。（前年度　６８７名）

(3) 近隣小学校、地域との連携事業を計３回以上実施する。

SSH

＜目標＞

(1)　課題発見力、創造的思考力、継続的実践力を高め、国際社会でリーダーとして活躍できる科学的人材を育成する教育の研究開発を行う。

(2)　第４期ＳＳＨ事業を学校内外に周知し、よりレベルの高い課題発見学習、自主的研究を実施する。

＜方策＞

(1)　「小石川フィロソフィー」について、各学年の生徒の発達段階に応じた知識や技能を育成するとともに、生徒の自発的な探究意欲を向上させることができるように、「ＳＳＨ-Ｐ Ｊ」を核とした全教科による指導体制をさらに構築する。

(2)　「小石川セミナー」及び「サイエンスカフェ」を一層充実させる。

(3)　「小石川フィロソフィー」と理数系部活動を連動させて様々な探究活動に取り組ませるとともに、研究成果について研究発表会等で発表を行わせる。その際、英語による論文作成や研究発表（ポスターセッションを含む）にも取り組ませる。

(4)　「小石川フィロソフィー」の継続研究を支援するオープンラボの充実を図るとともに、研究者や大学院生などによる課題研究メンターシステムを開発する。

(5) 国際科学コンテスト・国際科学オリンピック等に挑戦する生徒の取り組みを支援し、科学的思考力をもったグローバルリーダーを育成する。

(6) 大学との連携を強化し、各大学が主催するサイエンスキャンパス等に生徒を参加させるとともに、卒業生の在籍する大学研究室の訪問等を行う。

(7) 小石川フィロソフィー担当者会議やカリキュラムマネジメントのためのワークショップ型校内研修を活用して、教員の指導力向上を図る。

(8) 広報部との連携により「東大メタバース工学部×小石川中等×文京区　春祭り」を実施して、ＳＳＨとしての取り組みを地域に還元し、地域全体の理数教育のレベルアップを目指す。

＜数値目標＞

(1) 前期課程１学年及び２学年の理科において、実験・観察を扱う授業を７割以上にする。（前年度７割以上）

(2)　「オープンラボ」や「小石川フィロソフィー」等における英語による論文の作成件数を４０件以上に する。（前年度　５８件）

(3) 英語による研究発表を５０件以上行う。（前年度　６４件）

(4)　「サイエンス･カフェ」を１０回以上実施する。（前年度　１２回）

(5) 国際科学オリンピック予選等に１５０名以上参加する。（前年度　１２７名）

国際理解教育の充実

＜目標＞

(1) 国内語学研修、海外語学研修及び海外研修旅行に共通な目標を設定して、教育効果を高める。

(2) 国際交流を推進するため、生徒の海外留学を支援するとともに、オーストラリアやシンガポールの交流校など海外からの本校への訪問、学校体験を実施する。

(3) 海外の大学や高校への留学に関わる情報提供及び進路指導を行う。

(4) 本校の概要を英語で広報する。

(5) 生徒の英語力の向上を一層進め、国際的な課題について、英語で思考、発表できる力を身に付けさせ、これからの我が国を牽引するグローバルリーダーの育成に努める。

＜方策＞

(1) コミュニケーション・ツールとしての英語力を高めるという共通の目標の実現に向けて、国際部が海外語学研修及び海外修学旅行の企画・立案を行う。

(2) 海外からの生徒や教員を積極的に受け入れる。

(3) 国際部を中心に、外部関係機関をはじめ、各分掌、学年、教科等と連携して、留学ガイダンスを実施する。

(4) 英語版の学校案内を国際交流や海外語学研修、海外修学旅行などの際に配布する。

(5) 英語ディベートコンテスト等へ、積極的に参加する。

＜数値目標＞

(1) ３学年末までに英検準２級以上を取得する生徒の割合を９０％以上にする。（前年度　９３％）

(2) ４学年末までに英検２級以上を取得する生徒の割合を７０％以上にする。　（前年度　８３％）